

# 今なぜ教養教育か

全学共通教育センター長 桑折範彦

学生にとって

## 「教養」とは

与えられた表題について直截に答えることは難しいことですので、答申などに関連の文言を求めてみると、次のようなものがあります。

中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」<sup>[1]</sup>に同様の問いかけがあります。「今なぜ「教養」なのか」と。そのまともは、「…自ら今どのような地点に立っているのかを見極め、今後どのような目標に向かって進むべきかを考え、目標の実現のために主体的に行動していく力を持たなければならぬ。この力こそが、新しい時代に求められる教養であると考え」とされています。つまり、教養とは自らの学びの結果を定めた目標の実現のために主体的に用いていく「力」(能力)だということです。また、「教養とは、個人が社会とかかわり、経験を積み、体系的な知識や知恵を獲得する過程で身に付ける、ものの見方、考え方、価値観の総体ということができるとの記述もあります。

大学設置基準では、学部段階の教育課程において、「大学は、学部等の専攻に係る専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養及び総

合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養するよう適切に配慮する」とあります。大学評価機構は「幅広く深い教養及び…」以下の部分全体が、教養教育の必要性を規定していると説明しています。

## 教養教育が求められる背景

そうした教養教育に関する見方が示され、議論がなされる背景には、社会の共通の目的や目標が見いだしにくい社会全体の価値観のゆらぎなど、自我の確立をもとめ、自ら学ぼうとする意識が薄れている社会状況があるとも言われています。様々な分野の社会の指導者たる人達は、教養教育が重要であると指摘しています。

それは社会の多くの局面において、人間に対する理解とともに広い視野に立った適切な判断というものが大切であり、絶えず自分自身がそうした判断を求められているためでありましょう。また、それだけ社会が高度化、複雑化しており、適切な判断が簡単には決まらないということだと思えます。それ故に、社会からは、大学に対して、「幅広い視野から物事を捉え、高い倫理性と責任感を持って判断し行動できる人材の育成」について一層強く期待されることに

一方、学生にとって、学ぶとはどういうことか、「一つは、あるまとまりのある知識を獲得すること、もう一つは、何かを為す能力を獲得すること」、「これがシカゴ大学での初年次生へのテキスト「How to Study」<sup>[2]</sup>に書かれていることです。知識と能力を共にバランス良く身に付けることが大切だということでしょう。それによって学生は将来の進路(職業)選択の可能性が広がるという点で重要です。

「現代の高等教育」<sup>[3]</sup>では、米国の場合と対比して、日本では専門の分野を決めて、学部学科に入学するケースがほとんどで、それ故、学生は専門を学びたいのに、その前に教養科目など一般的な科目をなぜ学ぶのかに疑問を持ち、教養科目を学ぶ意欲を高められぬと指摘されています。それだけでなく、入学した学部学科に関連する専門的な学習においてさえ、学習履歴が偏っていたり、基礎的学力や一般的な知識が平均的には十分でなくなっている状況です。学生自身が何をどのように学べばよいか分かり易く示し、学習意欲を喚起する必要があります。

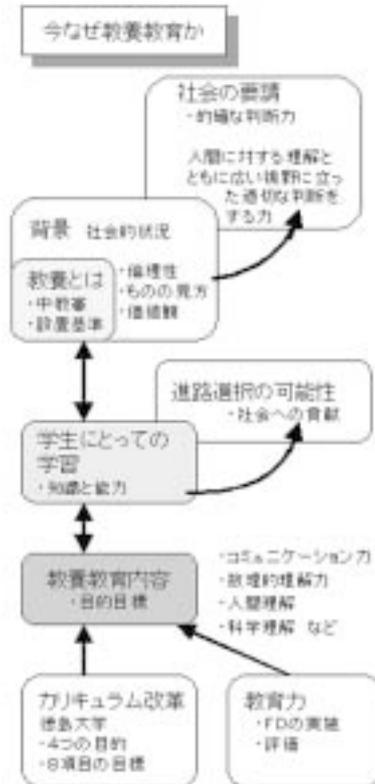
## 共通教育の目標の明確化と教授法の改善

「もはや学生は自ら学ぶものだと思っていけない。学生は教えられないかぎり学ばない」のだとトロウが言っていて、大学の学士課程ではもはや研究の内容よりも、学生を教え導くこ

とが最も重要になるとも言っています。学生、院生と共に学び、研究の質を高めるためにも意識する必要があると思います。学生を導くためには、授業の内容について目的・目標を明示して、その達成度を評価することが必要で、同時に、その目標を実現するために教授法の変革が必要だということの意味しています。

共通教育における問題の一つは、学生は授業に良く出席しているにもかかわらず、自ら予習・復習に費やす時間がほとんど1時間以下で、到達度も十分でないと感じている点です。このことは学生自身の問題でもありますが、教員の授業方法にも改善すべき点が大いにあります。

教員が自らの研究に基づいた結果や知識を授業で講述するだけでなく、学生が自ら必要な能力（結論へ至る思考方法、資料収集法まとめる方法、説明能力など）を身につけ鍛えて、講義された内容や自らの意見などを見いだせるように授業を構成する必要があります。教員が良い内容の講義をするのみならず、予習や復習のための適切な課題を与えることが大切なのではないかと



考えています。学生も適切なレベルと内容の課題を必要としていると思います。その点で教員が様々な授業上の工夫をすることが求められています。

### 教育力の養成とカリキュラムの開発

教員の授業（教育）力を養成するために、今や多くの大学で、ファカルティ・デイベロップメント（FD研修会）が行われています。徳島大学でも、今年の春から新任教員の1泊FD研修会が、大学開放実践センターが中心になり行われました。今後この活動が実を結ぶことが期待されています。

教員の授業（教育）の能力開発が求められることと同時に、更に一歩踏み込むと結局のところ学生に提示する教養教育（共通教育）の抜本的FD、つまり、カリキュラム開発が重要だということになります。

これらの点で全学的

な観点から大学生の持つべき資質、知識、能力などを養成するための具体的なカリキュラムを示す必要があります。大学審議会答申「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」<sup>[4]</sup>には、その具体例として、外国語によるコミュニケーション能力やコンピュータによる

情報処理能力、学際的総合科目などが示されています。徳島大学では、教養教育の改善について大学教育委員会のWGで議論をして、次の四つの目的を掲げました<sup>[5]</sup>。(1)社会人としての豊かな人間性と高い倫理観を培う。(2)大学での学修に適応し、主体的に知的訓練に取り組む態度を養う。(3)諸科学の基本的思考法や言語運用能力などを身に付け、自立的学修の基盤を形成する。(4)複合的な視点から専門分野を理解し、必要な基礎的知識を身に付ける。これらの目的に基づいて平成16年度から新カリキュラムに移行すべく現在検討中です。

今後は、中期計画・目標として、更に具体的にカリキュラムやその到達目標などを明確にして、学士課程における教養教育を充実させていくことが、徳島大学として求められています。教員各位のご協力をお願いいたします。

### 参考

- [1] 中央教育審議会答申「新しい時代における教養教育の在り方について」(2002)
- [2] A.W.Konhauser "How to Study" The Univ. of Chicago Press.
- [3] 喜多村和之「現代の大学・高等教育」玉川大学出版部(99)
- [4] 大学審議会答申「グローバル化時代に求められる高等教育の在り方について」(2000)
- [5] 答申「教養教育改善の検討」徳島大学大学教育委員会WG(2001)